

論文タイトル： Epidemiological aspects of obesity and NASH/NAFLD in Japan.

論文著者： Yoshiike N, 他

論文掲載誌： Hepatology Research. 33: 77-82.

昭和 51 年(1976 年)から平成 12 年(2000 年)の「国民栄養調査」および「国民健康・栄養調査」に参加した全国の 20 歳以上の男女の BMI 等を用いて、非アルコール性脂肪性肝疾患のリスクとなる肥満の有病割合とその地域差を調べた研究です。

この研究では、国民栄養調査、国民健康・栄養調査で調べた BMI のデータを用いて、昭和 51 年から平成 12 年までの BMI の 10 年ごとの変化率($\text{kg}/\text{m}^2/10$ 年)と肥満者($\text{BMI} \geq 25$)の割合を男女、年齢階級に算出しました。その結果、男性では、どの年齢階級でも、BMI は年々増加する傾向にあり、特に、60 歳代と 70 歳以上の BMI の 10 年ごとの変化率は、それぞれ+0.55、+0.52 と、その傾向が顕著に認められました。一方、女性では、20-40 歳代の BMI は年々減少し、60 歳以上では増加するなど、年齢階級により異なる傾向が認められました。

さらに 20-49 歳の対象者については、肥満者の割合の年次推移を、首都圏・都市・郊外の 3 つの居住地別に検討した結果、男性では、首都圏よりも、郊外に住む対象者で、肥満者の割合が増加していると明らかになりました。

この研究から、日本人の BMI の年次推移だけでなく、肥満についてその推移には地域差があることが示唆されました。

※詳細は、文献をご確認ください。

—国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所—